
刈谷市まちなかマネジメント構想

～刈谷駅北口周辺エリア編～

目次

～刈谷駅北口周辺エリア編～

1 将来構想	1
1-1 まちづくりの方向性と将来イメージ	1
1-2 想定される取組み	2
1-3 想定される取組みの概要.....	3
01 安全で快適な歩行空間づくり.....	3
02 安全で快適なにぎわいの拠点機能づくり.....	4
03 魅力ある複合的な駅前空間の創出による”ヒト”が集うにぎわいづくり.....	5
04 にぎわいの溢れる駅前のシンボルロードづくり.....	6
05 歩いて回遊でき、界隈性を感じることができるにぎわいづくり.....	7
06 地域住民、行政などによる魅力的なまちの形成.....	8
2 外部有識者などの主な意見	9

～ 刈谷駅北口周辺エリアの概要 ～

本市の中心地域には世界有数の製造業の本社が複数立地していることから、刈谷駅は1日あたり8万人以上が利用する重要な交通結節点となっており、“人・モノ・情報”が集積し、多種多様な交流が生まれています。近年、刈谷駅南口周辺では、再開発事業及び民間開発などにより、各種公共施設や商業施設などが整備され、都市拠点としての機能が集積されるなど、魅力ある複合的な中心市街地としてのまちづくりが進められてきました。一方、刈谷駅北口周辺においては、飲食店を中心とした一定のにぎわいの創出がされていますが、歩行者を中心とした交通需要への対応、交通安全の確保及び公共施設へのアクセスの利便性向上など、本市の玄関口に相応しい安全で快適なにぎわいのあるまちづくりが求められています。

『刈谷市まちなかマネジメント構想』～刈谷駅北口周辺エリア編～(以下「本構想」)の策定は、本市の玄関口である刈谷駅北口周辺における、まちの現状を踏まえたうえでの10年から20年先の将来像としての空間・景観デザインの骨格や、住民、企業、商業者、行政などの様々な主体の参画、連携などによる今後のまちづくりの方向性を示すことにより、まちなかの魅力をさらに磨き上げ、人の交流やにぎわいの創出を推進することを目的とします。

1 将来構想

1-1 まちづくりの方向性と将来イメージ

(1)まちづくりの方向性

人を引き寄せる、回遊とにぎわいのあるまちづくり

「刈谷駅北口周辺エリア」は、本市の都市拠点における中心的な役割を担い、多くの市民や周辺企業の通勤者など1日あたり8万人以上が利用する中心的な交通結節点である刈谷駅を有し、本市の玄関口としての機能を担っているエリアです。

また、本エリアでは、周辺企業の通勤者をはじめとする多くの駅利用者が行き交うとともに、飲食店を中心とした商業施設が集積し、人・モノ・情報が集まり、一定のにぎわいが創出されています。そのような中、鉄道を中心とした交通結節点である本エリアは、朝夕の通勤・帰宅時に多くの駅利用者が集まるため、歩行者をはじめとして自転車、車、バスなどの交通需要が多く、安全で円滑な移動環境が確保できていないなど、本市の玄関口であるがゆえに発生する課題があります。

これらの課題を解消するため、交通結節点としての機能強化を図るとともに、玄関口としてのポテンシャルを活かしたまちづくりを推進することにより、人を引き寄せる、回遊とにぎわいのあるまちを目指すものとします。

(2)まちの将来イメージ

1 歩行者が安全で快適に通行できるまち

歩行者が安全で快適に通行できる空間の整備を進め、回遊性のあるまちを目指します。

2 都市機能が充実した人を引き寄せるまち

交通結節点としての機能強化を図るとともに、魅力ある駅前空間の整備を進め、人を引き寄せるまちを目指します。

3 歩いて回遊できる、にぎわいのあるまち

憩いとにぎわいのある歩行空間の整備を進め、歩いて散策できるまちを目指します。



1-2 想定される取組み

前項に示した「1-1(2)まちの将来イメージ」の形成に向けて進めていく取組みを以下に示します。
また、これらの取組みのおおよその位置は下図のとおりです。

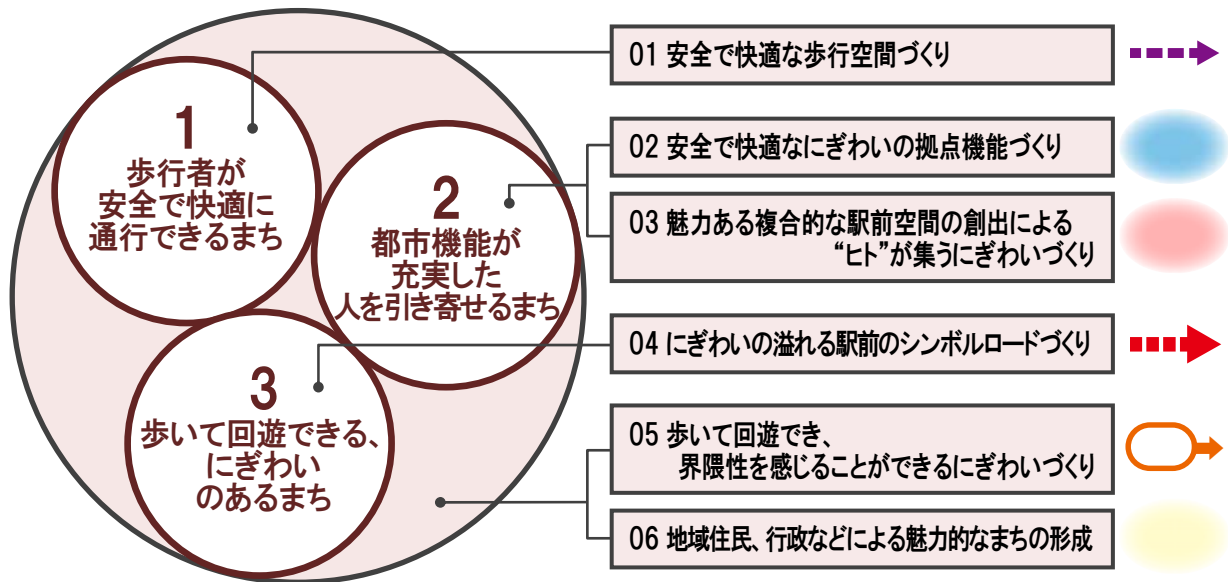


図 まちの将来イメージの形成に向けて進めていく取組み

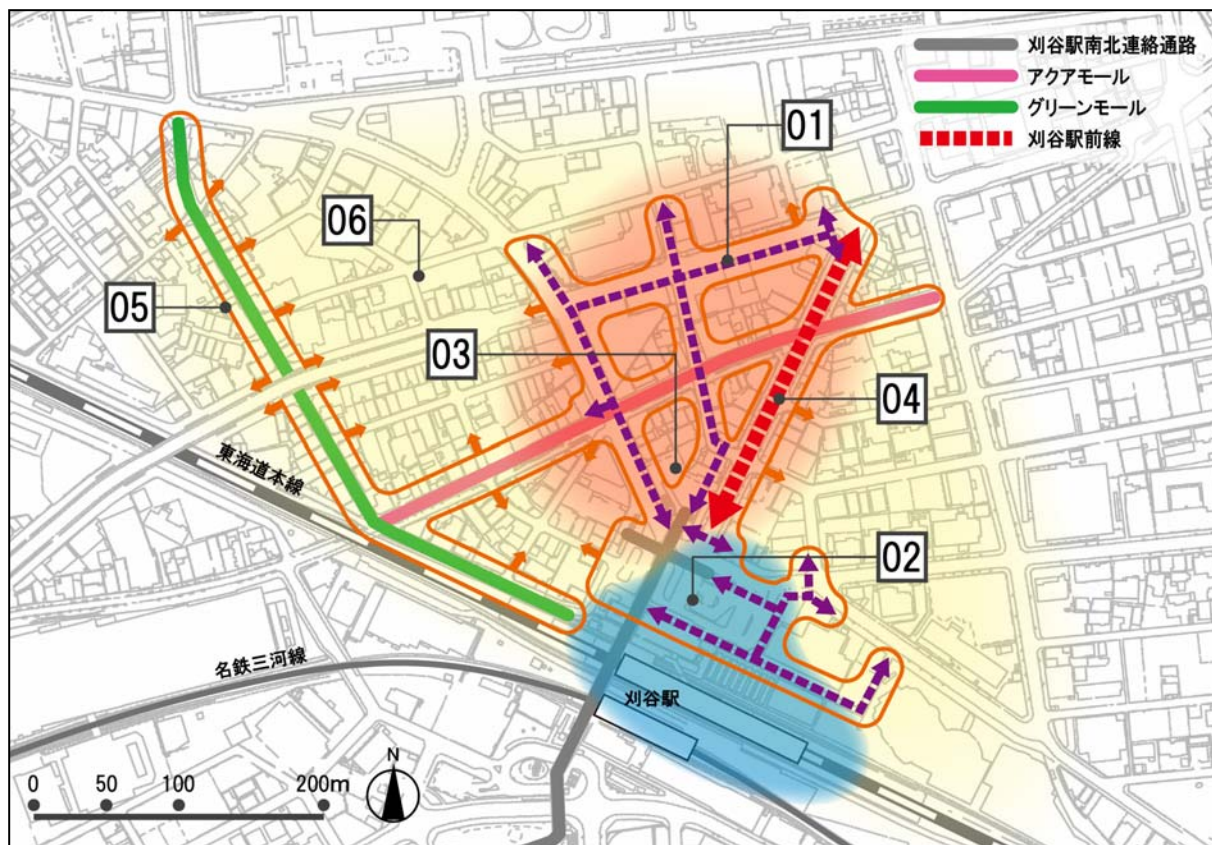


図 取組みの位置

1-3 想定される取組みの概要

01 安全で快適な歩行空間づくり

刈谷駅北口周辺の道路においては、朝夕の通勤・帰宅時における歩行者の交通需要が非常に多く、駅利用者をはじめとする多くの人の通行に支障をきたしていることや、歩行者の乱横断、歩道における自転車と歩行者の錯綜などが発生しており、安全で円滑な移動環境の確保が求められています。

刈谷駅北口周辺の活力あるまちづくりと連携し、鉄道及び路線バスなどの公共交通結節点である刈谷駅へのアクセスの利便性向上のため、歩行者と自動車の分離及び歩行導線のネットワーク化を図り、安全で快適な歩行空間づくりを推進します。



02 安全で快適なにぎわいの拠点機能づくり

本市の交通結節点である刈谷駅は、朝夕の通勤・帰宅時において駅の混雑状況が顕著に見受けられ、安全性の確保が求められています。また、刈谷駅北口駅前広場においては、バスなどの乗降場及び待機場、送迎などによる一般車両の駐車スペースの整備をこれまでも行ってきましたが、増大する需要に追いついていないことや、多くの人が集まる駅前空間としての拠点機能の確保に対する声が高まりつつあることから、本市の玄関口として相応しい拠点機能の整備とともに、にぎわいの創出に向けた取組みが求められています。

刈谷駅において、ホーム上や改札周辺の安全を確保するとともに、駅前広場において、バスの乗降場及び待機場の増設、一般車両との導線分離や駅前空間の有効利用を図ります。また、ペデストリアンデッキとの機能的な接続による立体的な空間利用を進め、刈谷駅へのアクセスの利便性向上を図るとともに、安全で快適なにぎわいの拠点機能づくりを推進します。



03 魅力ある複合的な駅前空間の創出による

“ヒト”が集うにぎわいづくり

本市の玄関口である刈谷駅の北口周辺エリアは、市内外へのアクセスの利便性が高く、近年は女性の割合も増えるなど多くの駅利用者が行き交い、人・モノ・情報が集まる本市の拠点として、土地の高度利用を図るとともに、にぎわいの創出に向けた仕組みを構築するなど、まちのポテンシャルを活かしたまちづくりが求められています。

まちの顔であり、多くの人が行き交う刈谷駅前の特性を活かし、市街地再開発などの手法による、土地の有効・高度利用を図る中で、カフェなどをはじめとしたこれまでにない新たな人が滞留できる機能をそなえる多彩な駅前機能の充実を図るなど、魅力ある複合的な駅前空間の創出による“ヒト”が集うにぎわいづくりを推進します。



04 にぎわいの溢れる駅前のシンボルロードづくり

刈谷駅北口駅前広場から正面に伸びる刈谷駅前線は、交通量が少ないうえに幅員が広いことから、長時間の路上駐車が見受けられます。道路形態を改善するなどの対策を講じることで、にぎわいを生み出す可能性を秘めた道路としてのポテンシャルを活かすことが求められています。

道路の形態を全面的に見直すことで、路上駐車を削減し、自動車交通の円滑化を図るとともに、安全で安心な歩行空間を確保します。また、官民が連携し、オープンカフェの設置や広告マネジメントの導入など道路空間を含めて、刈谷駅北口周辺まちづくりと一体となった新たなにぎわい空間を創出し、まちなみ散策など、歩いて楽しむことができるにぎわいの溢れる駅前のシンボルロードづくりを推進します。



05 歩いて回遊でき、 界隈性を感じることができるにぎわいづくり

刈谷駅北口周辺エリアでは、近年、刈谷駅を利用する方が増加傾向にあることや、飲食店を中心とした商業施設が新たに集積しているなど、まちのポテンシャルが高まっていることから、さらなる人の交流とにぎわいの創出に向けた可能性を感じることができるまちとなっています。

一方で、古くから店舗を構えている方が高齢になるなどの理由により、これまで営業していた店舗が閉められて住居となったり、空き店舗となることなどが見受けられます。

本エリアでは、こうした状況をまちの強みとして捉え、面的な広がりのあるまちづくりを進めていくことが求められています。

①にぎわいの軸となる通りから路地への誘導

刈谷駅北口周辺には、アクアモール、グリーンモール、刈谷駅前線などの、にぎわいの軸となる通りがあり、その沿道では飲食店をはじめとする幾つもの商業施設が立地しています。また、そうした通りと交差する路地には小さな飲食店が軒を連ねた空間が広がっており、これらは他所では見られない魅力の一つとなっています。

軸となる通りと路地がつながり、古くからある店舗と新しい店舗のそれぞれが、自らの個性を活かし共存することで、人を引き寄せるまちとしての魅力を一層高め、歩いて回遊でき、界隈性を感じることができるまちづくりを推進していきます。

②にぎわいの創出のための環境づくり

刈谷駅北口周辺では、毎年、各種イベントが開催され、大勢の来訪者によるにぎわいが見られます。しかし、こうしたイベントの開催場所の多くは公共施設、駐車場、空き地などに限定され、一部の限られた場所しか開催できない状況にあることにより、思うように駅前などから人を誘導できないなど、積極的な「仕掛け」を施すことが困難な状況になっています。

このため、各種イベントの開催場所として、これまでの公共施設などのほかに、道路や駅前広場を利用することで、にぎわいを創出できる仕組みや環境づくりを推進していきます。

③にぎわいの創出を支える住民・商業店主などの意識づくり

刈谷駅北口周辺では、現在営業している商業施設に並んで、店舗が閉められ住居となっていたり、空き店舗になっている建物が見受けられます。こうした地域で、商業を中心としたにぎわいの創出を進めていくためには、個々の商業施設の魅力向上だけでなく、通りとして、また、まちとしての魅力を高め、多くの人が行ってみたいと思う演出を行うことが必要です。

このため、現在、店舗が閉められ住宅となっている建物や空き店舗の所有者などに対し、にぎわいのあるまちづくりに対する理解と協力を促して、まちの魅力向上を図っていく取組みを推進していきます。

06^{※1} 地域住民、行政などによる魅力的なまちの形成

①主体間の連携

にぎわいの創出や安全で快適な暮らしを享受できる地域社会を実現していくためには、地域住民、行政などが地域(エリア)のあるべき姿を共有し合い、まちづくりに対する役割を明確にしたうえで、まちの課題の確認や解決に向けた協働の環境(場や機会)と体制を整えていくことが必要です。

さらに、こうした場や機会を通じた取組みを進めていくことで、将来的には自立性のある地域住民主導のまちづくりや、地域住民・団体による^{※2} エリアマネジメントなどに発展していくことが望まれます。

②人材の育成

まちづくりの主体は地域住民などであり、自らが魅力的なまちを実現しようとする際は、自らが地域の問題点や課題を自身のこととして捉え、行動していくことが必要です。

そうした中、地域住民などによる主体的な行動を進めていくうえでは、地域全体を捉えた「広域的な視点」や、地域の活性化を捉えた「経営的な視点」、さらには異なる利害関係を調整する「コーディネートの視点」などの、高いマネジメント能力を持つリーダーの存在が、今後求められるところです。

このため、各種事業を進めていくことと並行し、まちづくりを支える人材の育成を、「地域住民などの意識の底上げ」と「リーダーの育成」の2つの観点から取り組んでいくこととします。

③情報の発信

まちづくりは行政だけで行うものではなく、また地域住民などだけで行うものでもありません。まちづくりは、多様な関係者間の協力と連携により進めていくことが必要とされるものです。

そうした中、これらの協力と連携を一層効果的に進めていくためには、それぞれの関係者が持つまちづくりに関する各種の情報を提供し合い、共有することが求められます。

このため、地域住民などは、各種まちづくりに関する情報発信を積極的に行うとともに、行政は、情報発信媒体の一層の活用や、公共空間などを効率的に活用するなど、地域住民などが発信する情報の機会や場をさらに提供できるよう支援していきます。

※1 地域住民などとは、住民、企業、商店・商店街などを指します。

※2 エリアマネジメントとは、「地域における良好な環境や地域の価値を維持・向上させるための、住民・事業主・地権者などによる主体的な取組み」のことを言います。(平成20年3月、国土交通省)

なお、「良好な環境や地域の価値の維持・向上」には、快適で魅力に富む環境の創出や美しいまちなみの形成、資産価値の保全・増進などに加えて、人を引き付けるブランド力の形成、安全・安心な地域づくり、良好なコミュニティの形成、地域の伝統・文化の継承など、ソフトな領域のもの含まれます。

2 外部有識者などの主な意見

本構想の策定にあたっては、学識経験者、地元住民代表、地元企業、商店街組合をはじめとする各種関係団体などと、対象エリアが抱える課題や将来のまちづくりの方向などについて意見交換を行いました。

その主な意見は以下に示すとおりです。

【主な意見のまとめ】

■刈谷駅北口周辺エリア

- 朝夕の通勤時間帯に人の流れが多く、安全面の対策などから、上部空間、地下空間の活用などによる歩車分離施設の整備を行う必要がある。
- 刈谷駅は朝夕とも滞留が多く危険である。ホーム幅が狭く、危険を感じる。
- 改札の数が少なくラッシュ時は滞留している。
- 乗り換えの関係上、名鉄改札とJR改札の間を走って移動している方がいて危険である。専用の乗り換え口があると良いと思う。
- 駅前の印象は重要である。初めて訪れる方が良い印象を持ってもらえるような仕掛けをすることにより、刈谷のブランド力UPにつながると思う。
- カフェや洒落たレストランがあると女性が利用しやすい雰囲気が出てくると思う。
- 刈谷駅前線、アクアモール、桜町通りなどは、刈谷市の顔となる通りとして相応しい店舗構成になれば良いと思う。
- 小さな店舗が集まる刈谷駅北口は路地が美しい界隈性のあるまちが似つかわしい。脇道も壊すことなく活かし、回遊できるような通りになると良い。
- イベントの企画運営には若い世代が入り、5年や10年毎に世代が交代していくようなサイクルができるとマンネリ化しないと思う。
- 北口ロータリーの上部空間を有効活用してみても良いのではないかな。
- 商店街全体で、気に入った店に気軽に入れる雰囲気があると良い。特に、女性目線で美しく、周遊できる施設やまちが形成されると人の流れが変わるのではないかな。
- 緑に囲まれたテラスやきれいな公園がまちなかにあれば、女性やファミリー層が集まると思う。
- 昼間の利用客(高齢者、学生、打合せ利用客など)を想定した取組みを進めるべきである。
- 面的な広がりをもったイベントを開催し、滞在時間を長くするべきである。
- オープンカフェやマルシェを歩道や民有地などで開催できるようにすることが、地域のにぎわいを生み出すと思う。
- にぎわいを盛り上げるのは民間でできるため、行政には規制緩和を行ってほしい。
- 暮らす場所というよりも、企業のまち、商業、夜のまちという印象がある。
- 刈谷駅前には、住みたいと思っている若い世代がいても、マンションなどの販売価格が高く、購入することが難しい。 など

刈谷市まちなかマネジメント構想
～刈谷駅北口周辺エリア編～
平成 28 年 12 月発行

発行 刈谷市

編集 企画財政部企画政策課

〒448-8501 刈谷市東陽町 1 丁目 1 番地

TEL 0566-23-1111(代表)

URL : <http://www.city.kariya.lg.jp/>